

施策評価調書(23年度実績)

施策コード I-8-(1)
 長期総合計画頁 67

政策体系	施策名	地域で共に支え合うまちづくり	所管部局名	企画振興部、福祉保健部
	政策名	地域の底力の向上～助け合い、支え合いによる豊かな地域生活の実現～	関係部局名	企画振興部、福祉保健部

【Ⅰ. 主な取り組み】

取組No.	①	②	③
取組項目	地域ぐるみで支え合う社会づくり	心豊かな福祉社会の発展を担うひとづくり	バリアフリー化の推進とユニバーサルデザイン社会の構築

【Ⅱ. 目標指標】

指 標	関連する取組No.	基準値		23年度			24年度	27年度	目標達成度(%)									
		年度	基準値	目標値a	実績b	b/a	目標値	目標値	25	50	75	100	125					
i 見守りなどの小地域ネットワーク組織が設置された自治会数(団体)	①	H16	1,461	2,270	2,588	114.0%	2,420	2,870										
ii 自主防災組織活動実施率(%)	①	H16	41.8	52	51	98.1%	64	100										
iii 授業に地域人材を活用している学校の割合(%)	小学校	①	H16	90.1	96 (H22)	97 (H22)	101.0%	98.2	100									
	中学校	①	H16	76.2	91 (H22)	89.5 (H22)	98.4%	93.7	100									
iv ボランティアコーディネーター率(県ボランティア・市民活動センター)(%)	②	H22	39.3	42	39.6	94.3%	44	50										
v 社会福祉士の登録者数(人)	②	H16	742	1,800	1,842	102.3%	1,950	2,400										
vi 介護福祉士の登録者数(人)	②	H16	5,723	12,400	12,393	99.9%	13,400	16,400										
vii バリアフリー化された県営住宅の割合(%)	③	H16	11.2	18	18.4	102.2%	19	22										
viii 公共的施設などで車いす使用者が利用できるトイレの設置割合(%)	③	H15	42.1	52	50.8	97.7%	54	60										
ix あったか・はーと駐車場協力施設数(施設数)	③	H22	0	600	468	78.0%	900	1,000										

【Ⅲ. 指標による評価】

評価	理由等	平均評価
i 達成	地域住民で共に支え合い、誰もが住み慣れた地域で安心して心豊かに暮らせる地域づくりが進み、目標値を達成できた。	概ね達成
ii 概ね達成	東日本大震災の教訓もあり目標値を概ね達成した。今年度は活動の核となる防災士3,000人を養成し、自主防災組織での避難訓練や防災研修の充実を図る。	
iii 概ね達成	地域と学校の連携の窓口となる教職員等の研修会を6教育事務所毎に実施し、地域人材の活用等について小・中学校教職員の周知・理解を図った結果、目標値を概ね達成した。なお、23年実績が10月に確定するため、目標値と実績は22年度の数値を記載している。	
iv 概ね達成	多数のボランティア登録者がいたが、ボランティア登録者の中には、活動開始に向けて研修を要し23年度中には活動まで至らなかった人も多数いるため、目標値を達成できなかった。	
v 達成	職場体験など、福祉・介護の仕事への就職率増加に向けた取組の成果もあり、目標値を達成した。	
vi 概ね達成	目標値には僅かに届かなかったが、職場体験など、福祉・介護の仕事への就職率増加に向けた取組の一定の成果もあり、昨年度比概ね1,000人増加した。	
vii 達成	計画どおりの立替えが実施できており、高齢者や障がい者にやさしい住宅づくりが進んでいる。	
viii 概ね達成	目標値には達しなかったものの、バリアフリーやユニバーサルデザインの考え方が普及し、昨年度に対して設置割合が上昇した。	
ix 著しく不十分	公営施設を中心に協力依頼を行ったが、歩行困難者の乗降に適していない施設や一般来所者の駐車を想定していない施設等があり目標値に届かなかった。今後は、民間施設を対象に、事業者団体や商業施設を直接訪問し、あったか・はーと駐車場利用証の交付が順調に伸びていることや協力施設となることのメリットを説明することで、協力施設の増加を図る。	

【IV. 指標以外の観点からの評価】

取組No.	評価
①	・県内各地のふれあいサロン活動拠点を174箇所整備し、地域コミュニティの活性化を支援した。また、県下全域で緊急医療バトンが整備され、高齢者等の安全・安心が確保された。
②	・社会福祉従事職員や民生委員及び児童委員等に対する研修を行い、資質の向上を図った。
③	・県内の32校の小学校において、1,787人の児童生徒を対象に、身体障がいのある当事者もしくは支援者及び県職員による出前講座を行い、ユニバーサル社会の構築を推進した。

【V. 施策を構成する主要事業の評価】

取組No.	事業名	事務事業評価		事業コスト (千円)
		総合評価	掲載頁	
①	1 高齢者等地域支え合い体制づくり支援事業	終了(24年度末)	58	197,366
	2 地域の福祉力再生事業	終了(24年度末)	—	19,836
②	1 福祉・介護人材確保対策事業	見直し(24年度)事業内容の変更	—	47,500
	2 豊の国福祉を支える人づくり研修事業	現状維持	—	23,480
	3 福祉ボランティア活動活性化事業	見直し(24年度)効率化の推進	—	17,122
	4 福祉ボランティア・市民活動推進事業	現状維持	—	9,273
③	1 県営住宅整備事業	—	192	603,168
	2 安心おでかけユニバーサルデザイン推進事業	見直し(24年度)事業内容の拡充	59	46,998

【VI. 主な取り組みの進捗状況・今後の課題】

進捗状況	取組No.「③バリアフリー化の推進とユニバーサル社会の構築」について、やや遅れている。	
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者等の生活支援の機能を有するサロン活動の推進 ・福祉、介護職場での就労者の増加 ・あったか・はと駐車場の協力施設の増加 	

【VII. 施策に対する意見・提言】

<p>○「安心・活力・発展プラン2005」中間見直し策定委員会(H24.7)</p> <p>・災害時の備えのためにも、地域コミュニティを重視してもらいたい。</p>	
--	--

【VIII. 今後の施策展開について】

今後の方向性	施策展開の具体的内容
現状維持	<ul style="list-style-type: none"> ・7月豪雨災害をふまえ、災害時要援護者を地域で守る観点から、地域活動を担うリーダーやボランティアの確保・育成を推進するとともに、民生児童委員や自治委員、NPO、社会福祉施設、福祉人材のネットワークの構築を支援し、地域の支え合い組織の充実を図る。 ・地域コミュニティ活動や高齢者のサロン活動の拠点を、介護予防事業や高齢者の健康づくり事業と連携して充実・強化し、小地域ネットワーク組織の維持・活性化を図る。 ・ユニバーサル社会の構築を促進するため、大分あったか・はと駐車場の協力施設を、商業施設、社会福祉施設等を対象として拡大するとともに、学校をはじめ、地域や職場でのユニバーサルデザイン出前講座の開催を推進する。